

# 社会科(公民的分野)学習指導案

令和元年9月20日金曜日

1 単元名 個人の尊重と日本国憲法 ～より良い社会を実現するために必要なことを考えよう～

## 2 単元設定の理由

〈単元について〉

平成20年度学習指導要領(社会科)では、目標として「(2)民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。」と示されている。平成29年度版においても、「(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」と示されている。公職選挙法の改正に伴い、選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられ、現代社会はグローバル化・少子高齢化・超スマート社会化(Society5.0)が急速に進んでいる。変わりゆく社会の中、社会科においては、基本的な知識・技能を習得するとともに、現代社会に関する説明的知識、社会科的な見方・考え方を働かせながら社会における課題を多面的・多角的に考察し、公正に判断し、説明、議論する力を付ける必要がある。

本単元では、基本的人権の尊重の根幹にある「個人の尊厳」・「法の支配」の概念の獲得のために、公民的分野の単元「個人の尊重と日本国憲法」を題材として設定する。基本的人権の尊重は人類が歴史上で獲得したもので、民主的な国家の形成に欠かせないものとなっている。我が国においても、自由民権運動・大正デモクラシー・戦後改革によって、民主的な国家が成立した。しかしながら、「社会的不公平感に関する世論調査」によると、「あなたは一般的にみて、現在の社会は公平だと思いますか、それとも不公平だと思いますか。」という問いに対して、「あまり公平だと思わない」、「不公平だと思う」と回答した国民は63.6%の割合を占めている。この結果から、憲法で権利は保障されているにも関わらず、平等で自由な共生社会は実現できていないとも言える。そこに課題を見出し、より良い社会の実現に向けての解決策を考察し学び合うことで、その実現の礎となる「個人の尊厳」・「法の支配」の知識や概念を獲得し、自ら判断し、国家・社会の形成者になるための資質・能力・態度を身に付けるために適した単元である。

〈学習者について〉

学習者はこれまで歴史的分野にて、基本的人権を獲得するに至った経緯やその歴史的な意義について学んでいる。その推移や比較、相互の関連などに着目し、近代社会の形成において重要な考えであったことも理解している。事前アンケートの中でも、「基本的人権の獲得が歴史に大きな影響を与えている」という項目については「そう思う」と回答した学習者は99%いた。また、「基本的人権の尊重が実生活の生活に影響をしているか」という項目については「そう思う」の割合は90%程度であった。しかし、「現代の社会は不公平だと思う」に関しては60%となっており、世論調査の結果とほぼ同様な数値であった。学習者は基本的人権について歴史で獲得され、実生活に影響している社会科の事象とは考えているが、まだまだ機能していないと捉えているといえる。

〈指導・「問い」の工夫について〉

本単元では、日本国民が社会は「不公平だと思う」と感じている割合が60%以上ということが、学習者の考えと社会の考えが同じであるということに着目させる。歴史上で獲得してきた基本的人権があるにも関わらず、なぜ不公平感を生むのかという疑問から、主体的・対話的な学習を生みたい(I)。具体的には、学習者自身が授業の振り返りで考えた「どんなことに日本人は不公平を感じているのか」、「不公平を感じる原因・背景は何なのか」、「どうすれば不公平感を解消できるのだろうか」といった疑問を調査していくことで、授業をすすめていく(II)。そして、現代社会における課題を調査し、比較・分類することを通して、基本的人権の尊重の根幹にある「個人の尊重」・「法の支配」の概念を獲得し、社会的事象を考える上での見方・考え方として使ってほしいと考えている。また、「1枚ポートフォリオ」を使い、振り返りで授業ごとの発見や疑問をまとめることで、単元を通して学習者自身に学びの深さを実感させたい。

## 3 単元の目標

基本的人権の尊重について、現代社会にみられる課題について考えることを通して、より良い共生社会を形成するためには、法の支配のもとで個人の尊厳を国民一人ひとりが意識し行動することが重要性を理解することができる。

#### 4 単元の評価規準

ア	イ	ウ	エ
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
基本的人権に関する現代社会の事象に関心を高め、意欲的に追及して、民主社会の個人と社会の関わりをとらえようとしている。	基本的人権の尊重について、現代社会の事象を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	現代社会の事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができる。	基本的人権の尊重が民主社会を形成していること、法に基づいた政治が基本的人権を保障していることを理解し、その知識を身に付けている。

#### 5 単元指導計画（総時数 6 時間）

単元を通したためあて「不公平感がない世の中にするには何が必要かを考える。」

時間	めあて	学習活動	問いの工夫	振り返り	評価規準	評価方法
1	不公平感を感じるということについて考えることができる。	不公平感に関するアンケートの結果を知り、社会にある不公平について考える。	「問い」の工夫Ⅰ 世間と学習者の考えの一致から単元のめあてを設定したり、学習者自身が課題に対して、学習の見通しを考えたりすることで(シラバス化)、学習者の意欲を高める。	色々な不公平感を考えることができた。次はその背景を考えたい。	ア	1枚ポートフォリオ
2	基本的人権の尊重の内容を理解できる。	基本的人権について知る。	「問い」の工夫Ⅱ シラバスをもとに、学習者の振り返りから疑問を抽出し、そこから次のめあてを設定することで主体的な学習を生む。また、学習者の調べたことや考えたことを比較させたり、矛盾した内容の資料を提示したりすることで、学習者の思考を活性化させる。	細かく基本的人権について理解したので、次はそれに従って、解決策を考えたい。	エ	
3 4	不公平感の原因・背景の情報を調査することができる。	不公平感の原因・背景の情報を収集する。		自分で調査することができたので、みんなと共有したい。	ウ	
5 本時	より良い社会をつくるために大切なことを考えることができる。	集めた情報をみんなで共有し、様々な角度から考察する。		より良い社会づくりのためには、個人の尊厳を意識することが必要だ。実際にはどんな風になってきたかを知りたい。	イ	
6	どのような権利が社会では認められてきたかを理解できる。	新しい人権について、その内容と背景を知る。		たくさんの人権が認められたことがわかった。大人になってもより良い社会づくりに関わりたい。	エ	

## 6 本時の指導

- (1) 題材 「より良い社会をつくるために必要なことを考えよう」
- (2) ねらい 基本的人権の尊重について、現代社会の諸課題を基に話し合い考察することを通して、より良い社会の形成のために、個人の尊厳を意識し行動することの重要性を理解できるようにする。
- (3) 本時における「問い」の工夫 前時の振り返りよりめあてを確認することで、主体性を生む。マトリクス等の思考ツールを用い、調べた内容を比較させることで背景・原因を捉え、根拠とすることで学習者の思考を促す。

### (4) 展開

学習活動	時間	指導	期待される学習者の反応	備考・評価
1 前時を振り返り、本時の課題を確認する。	3	<p>○前時の学習者の授業の振り返りの中から、本時につながる内容のものを紹介し、本時のめあてを確認する。</p> <p>「みんなが不公平・不当感を感じているが、解決する方法を話し合いたい。」「不公平感の解決の方法を考えるために、みんなの意見を聞きたい。」という思いを全体で共有する。</p>		
<p>めあて：意見を交流し、良い社会をつくるために、必要なものを考えよう。</p>				
<p>課題：どうしたら不公平感を解消できるだろうか。</p>				
2 各自で不公平等を感じることにについて調べたことを共有する。	10	○自分が調べた不公平等を感じる事象について、「どんな場面で」「どんな権利が保障されていない」「原因」という観点でグループに情報を共有させる。		
(例) どんな場面	「男なのに」「女なのに」など	LGBT に関する配慮	障がい者への配慮	格差社会
どんな権利	平等権	平等権	平等権・社会権	社会権
背景・原因	権利や法律では保障されているので、個人の意識の変化が必要。	法の整備・個人の意識の変化が必要。	偏見をなくすことや、国としての法や制度も問題がある。	法律があいまいな部分がある。また、国民が制度を知らない。
3 個人で考えた解決策を付箋を用いて交流し、班としてのホワイトボードを使い、クラスで交流する。	32	<p>○マトリクス等の思考ツールを用い、背景・原因を比較させながら不公平な事象の解決策について考えさせ、発表させる。</p> <p>○すべての個人がお互いに尊重し合うことを「個人の尊厳」というと説明する。</p> <p>○不公平感解消のために、近年多くの新しい人権が生まれていることを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの国民が意識できていないので、国民一人ひとりの意識が変わらないといけない。</li> <li>・少数派の想いを具体化すべきだ。</li> <li>・憲法で規定されているから、細かく法律を作って守るべきだ。</li> </ul>	
<p>まとめ：不公平感を解消するためには法律の整備の下で、個人の尊厳を意識して生活する必要がある。</p>				
4 本時の振り返りを行い、次回の課題を発見する。	5	○今日わかったこと、新たに生まれた疑問の視点で振り返りを行わせ、振り返りをもとに次回の課題を設定する。		
<p>予想される生徒の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権は国によって多くのものが保障されているから、個人の意識を変えなければならぬと感じた。どんな問題があるか、もっと知りたい。</li> <li>・共生社会をつくるために、個人の尊厳を意識するべきだ。どんな困りがあるのかを勉強したい。</li> </ul>				<p>より良い社会の形成のために、個人の尊厳を意識し行動することの重要性を考えている。</p>
<p>次回の課題：多様化する社会の中でどのような権利が新しく認められているのだろうか。</p>				

(5) 板書計画

めあて：より良い社会をつくるために、意見を交流し、自身の考えを深めよう。				
課題：どうしたら不公平感を解消できるだろうか。				
ホワイトボード	国民一人ひとりの意識が変わらないといけない。	少数派の想いを具 体化すべきだ。	憲法で規定されているから、細かく法律を作って守るべきだ。	
まとめ：不公平感を解消するためには法律の整備の下で、個人の尊厳を意識して生活する必要がある。				
振り返り ・ 基本的人権は国によって多くのものが保障されているから、個人の意識を変えなければなら ないと感じた。どんな問題があるか、もっと知りたい。				

# 単元構想メモ

※澤井先生の著書より作成

単元「 個人の尊重と日本国憲法 ～より良い社会を実現するために必要なことを考えよう～」

## ①単元の目標は何か（資質・能力）

現代社会の事象から課題を見出し、共生社会の実現に向けての解決策を考察し学び合うことで、より良い社会の実現の礎となる「個人の尊厳」・「法の下での支配」の知識や概念を習得し、現代社会に関する説明的知識、社会的な見方・考え方を働かせながら社会における課題を多面的・多角的に考察し、公正に判断し、説明、議論する力を養う。

## ④問題意識をもたせるために、どのような導入を図るか（③を届けるために）

日本国民が社会は「不公平だと思う」と感じている割合が 60%を超えているということに着目させ、生徒の考えとの共通性から本当に自由で平等な共生社会を生むにはどうすればよいかを生徒に意識させる。

### 問いの工夫Ⅰ

社会と生徒の意識の差について考え、生徒自身に疑問を生むことで、主体的な学びを生む。

## ⑥使える資料は何か。どこで使うか。

・ギャップを生む資料。

## ③どのようなめあて、課題にするか

（各教科の見方・考え方が働くもの）

より良い社会をつくるために大切なことを考えることができる。

### 問いの工夫Ⅱ

振り返りにて、授業で見つけた新たな疑問を全体で共有し、次の授業のめあてとすることで、主体的な学びを生む。

## ⑤どんな追及活動を行わせるか（言語活動含む）

「どんなことに日本人は不公平を感じているのか」、「不公平を感じる原因・背景は何なのか」、「どうすれば不公平感を解消できるのだろうか」といった生徒自身が授業の振り返りにて、考えた疑問を調査していくことで、授業をすすめていく。

調べ学習の成果をグループで共有することで、基本的人権について、対話の中で多角的な視点を生み出す。

## ②単元の最後に理解させたいこと、発言させたいことは何か

（単元のゴール+振り返りの視点）

基本的人権の尊重について、現代社会にみられる課題について考えることを通して、より良い社会を形成するためには、法の支配のもとで個人の尊厳を国民一人ひとりが意識し行動することが重要性を理解することができる。

## ⑦まとめの表現活動をどうするか

1枚ポートフォリオで文章化し、学習前後を比較する。